

令和4年3月 静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場ニュース

マイワシ・マサバが伊豆東岸定置網で記録的豊漁

冬季の伊豆東岸定置網には、房総以北海域から産卵南下回遊中のマイワシやマサバが入網しますが、今年の1月は記録的な豊漁となりました。静岡県定置漁業協会と当場の集計では、マイワシは776トンで前年比223倍、平年(昭和57年～令和2年平均値)比35倍、マサバは239トンで前年比62倍、平年(平成9年～令和2年平均値)比49倍と、いずれも前年、平年を大きく上回り、月別漁獲量としては過去最大となりました。漁獲されたマイワシは18～20cm、マサバは30～35cm主体でした。

豊漁となった主な要因としては、両者の資源量が増加傾向にあることが考えられます。また、房総半島沖で黒潮が離岸した頃から入網が本格化したことから、黒潮の流路変動などの海況条件も要因の一つと考えられました。

マイワシもマサバも脂乗りが良く、特に大型魚は鮮魚向けに高単価で取引されたとのこと。

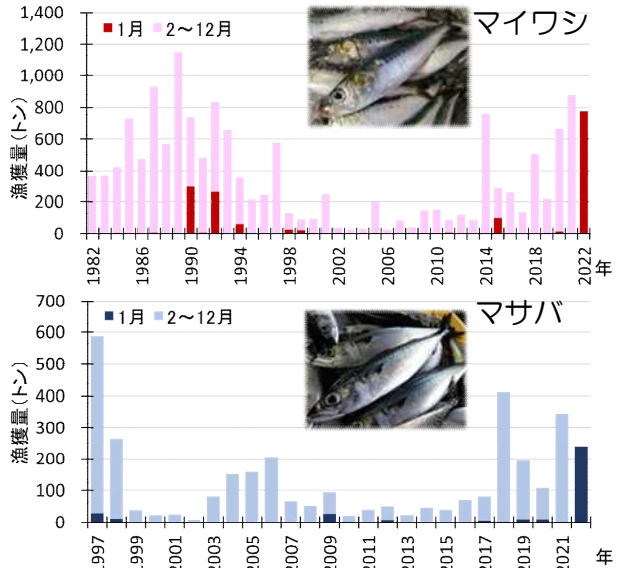


図 伊豆東岸定置網における漁獲量の推移

磯焼け対策用アカモク種苗の供給

黒潮大蛇行が長期間継続し、カジメの磯焼けとアワビ、サザエの痩せ貝が顕著になってきました。伊豆分場では磯焼け対策として、生産したアカモク種苗を須崎、伊東、網代、川奈地区に供給し、藻場造成作業を行ってもらいました。種苗の沖出し方法は各地区にお任せしました(写真)。晩春の成熟後、磯焼け海域に“種”が供給され、藻場造成が成功することを期待します。



(左)石に取付け、海に投入 (右)ロープ養殖方式種苗の沖出し方法

解説：アカモク：ホンダワラ属の1年生海藻。冬から春にかけての生長が著しく、幼稚魚育成場としての機能を果たすとともに、成熟後流失した藻体は貝の餌になる。また、近年食品として注目を浴びている。

一都三県キンメダイ実践協議会

2月3日に一都三県キンメダイ資源管理実践漁業者協議会が開催されました。この協議会は、キンメダイの主産地である静岡県、東京都、千葉県、神奈川県の水産業者が資源管理について話し合いをする場です。当日は、まず(国研)水産研究教育機構から現在の資源の状況について、水産庁から資源管理に係る施策等の説明があり、その後、各地区の漁業者から自主的に行っている資源管理について、各都県の水産研究機関から食害の状況や対策について報告がありました。持続的に漁業を行う上で資源管理は重要です。一方で、資源管理は各地区の漁業者が話し合いをして、納得をした方法で行うことが重要であるため、本協議会が毎年開催されています。



←会議の様子 (WEB会議)

3月の予定 ●テングサ作柄調査 ●磯焼け対策用アカモク種苗の供給 ●下田市水産海洋学講座議(1日) ●全国青年・女性漁業者交流大会(2日) ●カタクチワシ・ウルメイワシ太平洋系群研究機関会議(2日) ●キンメダイ種苗生産研究成果報告会(10～11日) ●県キンメダイ実践協議会(11日) ●キンメダイ資源評価担当者会議(23日)

連絡先：静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場 〒415-0012 下田市白浜251-1 電話：0558-22-0835

アドレス：suigi-izu@pref.shizuoka.lg.jp ホームページ：https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/izu

会場には、自由に見学できる展示施設があります。皆様のお越しをお待ちしています。